取扱説明書

UHF SYNTHESIZED WIRELESS TRANSMITTER

ATW-T6001 R

無線局免許必要（特定ラジオマイク専用帯）

お買い上げありがとうございます。
ご使用の前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。また、保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

本製品は特定ラジオマイク専用帯のワイヤレスマイクロホン送信機です。別売の受信機（ATW-R6200 R）と組み合わせてご使用ください。

目次

特長

- **31波同時使用を実現**
- **IR通信により送信機の設定が可能**
- **信頼性の高い独自の小型マイクコネクタ**
- **レバープッシュスイッチを採用し操作性を向上**
- **外来ノイズの影響に強いUHF帯の ワイヤレスシステム用送信機**
- **ライブ、イベントなどステージ用に最適**
- **PLLシンセサイザー方式**
- **可変圧縮コンパンダー（音声の圧縮・伸張）システム (PAT.)により、ダイナミックレンジの拡大、ローノイズ化を実現**
- **視認性の良い有機ELディスプレイ**
- **電池カバー誤動作を防止するダブルロック構造**
- **飛びが良く、柔軟性に富んだ1/4波長ホイップアンテナ**

安全上の注意

本製品は安全性に充分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。
事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。

⚠警告	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。
⚠注意	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

本体について

⚠警告

●**心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以内の場所では使用しない**
ペースメーカーが、本製品の電波の影響を受ける恐れがあります。

●**本製品を医療機器の近くで使用しない**
電波が心臓ペースメーカーや医療用電気機器に影響を与える恐れがあります。医療機関の屋内では使用しないでください。

●**本製品を航空機内で使用しない**
電波が影響をおよぼし、誤作動による事故の原因となる恐れがあります。

●**自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない**
電波が影響をおよぼし、誤作動による事故の原因となる恐れがあります。

●**指定の電池/充電式電池以外使用しない**
故障、不具合の原因になります。

●**本製品に異物(燃えやすい物、金属、液体など)を入れない**
感電、故障や火災の原因になります。

●**同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない**
事故や火災の原因になります。

●**異常に気付いたら使用しない**
異常な音、煙、臭いや発熱、損傷などがあったら、すぐに電源を切り、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。

●**分解や改造はしない**
感電、故障や火災の原因になります。

●**強い衝撃を与えない**
感電、故障や火災の原因になります。

●**濡れた手で触れない**
感電やけがの原因になります。

●**水をかけない**
感電、故障や火災の原因になります。

●**布などで覆わない**
過熱による火災やけがの原因になります。

⚠注意

●**直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない**
故障、不具合の原因になります。

●**火気に近付けない**
変形、故障の原因になります。

●**ベンジン、シンナー、接点復活保護液などは使用しない**
変形、故障の原因になります。

電池 / 充電式電池について

※指定電池以外は使用しないでください。

指定電池	単3形アルカリ乾電池（2本）または単3形ニッケル水素電池（2本）

⚠ 危険

●電池の液が目に入ったときは目をこすらない
すぐに水道水などのきれいな水で充分に洗い、医師の診察を受けてください。

●電池の液が漏れたときは素手で液を触らない
・液が本製品の内部に残ると故障の原因になります。
・万一、なめた場合はすぐに水道水などのきれいな水で充分にうがいをし、医師の診察を受けてください。
・皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水で洗い流してください。
皮膚に違和感がある場合は医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

＊1は充電式電池、＊2は電池についてのみの内容になります。

●火の中に入れない、加熱、分解、改造しない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

●釘を刺したりハンマーで叩いたり踏み付けたりしない
発熱、破損、発火の原因になります。

●幼児の手の届く所に置かない
電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
窒息や内臓への障害の恐れがあります。

●電池は（+）（－）を逆に入れない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

●硬貨やカギなど金属製のものと一緒の場所に置いたり、電池の（+）と（－）を接続しない
ショート状態になり液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

●新しい電池と一度使用した電池、銘柄や種類の違う電池を混ぜて使用しない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

●乾電池は充電しない（＊2）
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

●使い切った電池はすぐに取り出す
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

●長期間使用しない場合は電池を取り出す
液漏れによる故障の原因になります。

⚠ 注意

＊1は充電式電池、＊2は電池についてのみの内容になります。

●落下させたり強い衝撃を与えない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

●以下の場所で使用、放置、保管しない
直射日光の当たる場所、高温多湿の場所　■炎天下の車内　■ストーブなどの熱源の近く
液漏れ、発熱、破裂、性能低下の原因になります。

●水に濡らさない
発熱、破裂、発火の原因になります。

●指定の充電器、AC アダプター以外で充電しない　（＊1）
故障や火災の原因になります。

●外装ラベルがはがれた電池は使用しない、ラベルをはがさない
ショート状態になりやすく、液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

●変形させたりハンダ付けしない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

●保管、廃棄の場合は端子（金属部分）をテープなどで絶縁する
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。

●機器を使用したあとは必ずスイッチを切る
液漏れの多くは、スイッチの切り忘れによる電池の消耗が原因です。

⚠ 注意

- 指定の電池以外使用しない
  液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- 使用済みの電池は自治体の所定の方法で処分する（*2）
  環境保全に配慮してください。

■充電式電池のリサイクルについて

充電式電池はリサイクルできます。不要になった電池は、端子（金属部分）にテープなどを貼り付けて絶縁してから充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、社団法人電池工業会ホームページ http://www.baj.or.jp をご覧ください。

使用上の注意

- ご使用の際は、接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 本製品の近くに電子機器や発信機（携帯電話など）があると本製品にノイズが入る場合があります。その場合は離して使用してください。
- 本製品を設置する際、本製品と受信機の間に電波をさえぎるような障害物がないようにしてください。
- テレビやラジオのアンテナ付近で使用すると、テレビやラジオにノイズが入る場合があります。その場合は離して使用してください。
- 電池 / 充電式電池の消耗を防ぐため、使用後や使用しないときは本製品の電源を切ってください。
- 本製品は長い間使用すると、紫外線（特に直射日光）や摩擦により変色することがあります。
- コードおよびケーブルは必ずプラグを持って抜き差ししてください。引っ張ると断線や事故の原因になります。
- 本製品は日本国内専用です。
- 本製品は、簡易無線局にあたるため無線局免許申請が必要となります。詳しくは P.6「ワイヤレスマイクの電波法に関する注意」をお読みください。
- 本製品に貼られている技術基準適合証明シールを剥がすと法規上本製品を使用できなくなりますので、剥がさないでください。
- 本製品を分解して改造を行う行為は、法規上禁止されています。また、本製品は精密にできており、分解すると感電や故障、火災の原因にもなります。絶対に行わないでください。

■特定ラジオマイク専用帯（710 ～714MHz）

特定ラジオマイク専用の周波数帯として割り当てられており、全国どこでも運用することが可能です。ただし710 ～711MHzの1MHzについて、TV52chが地デジ放送波として使われている地域では、それを保護するための“ガードバンド”となっており、特定ラジオマイクとして運用することはできません。この1MHzを運用可能な施設等は、チャンネルリストによって指定されています。

チャンネルリストは「総務省電波利用ホームページ」→「資料集」→「特定ラジオマイクのTVホワイトスペースチャンネルリスト」で入手可能です。

ワイヤレスマイクの電波法に関する注意

■免許申請および許可について

ワイヤレスマイクシステムは電波法で決められた「特定ラジオマイク（陸上移動局）」であり、特定ラジオマイク運用調整機構への加入が義務付けられています。

開設（運用）する前に常置場所を管轄する総務省地方電気通信監理局長（沖縄の場合は総務省沖縄郵政管理事務所長）に申請して、無線局免許を受けてからご使用ください。技術基準適合証明を受けていますので、総務省による無線局の検査は省略されます。無線局免許状を入手しないで運用した場合は、電波法第 110 条により処罰される場合があります。

免許申請手続きに関するご相談、ご質問は特ラ機構、もしくは弊社プロフェッショナル SS 課までお問い合わせください。

● 特定ラジオマイク運用調整機構（特ラ機構）

〒162-0042　東京都新宿区早稲田町 74　中村ビル 3F
TEL 03-5273-9806

複数のワイヤレスシステムを使用する場合

- 複数台同時使用の場合、送信機同士は80cm以上、送信機と受信機は3m以上離してください。
- 複数台使用する際は音をモニターしながら送信機の電源を順にオンにして雑音のないことをご確認ください。

各部の名称と機能

送信用アンテナ

マイク入力コネクター
マイクロホン（別売）を接続します。

ディスプレイ
現在の状態を表示します。

※ 20 秒間何もボタン操作をしないと、ディスプレイが消灯します。

パワースイッチ
電源の ON/OFF をします。

SYNC ボタン
受信機との IRリンクの際に、使用します。

前面

BACK ボタン
1つ前の操作に戻ります。

BACK ◁ ○ ▷ SYNC ON OFF

LR6 / AA / 単三

レバープッシュスイッチ
各種設定など選択する際に使用します。

UP (▶)
右に傾けると選択している項目を変更できます。

DOWN (◀)
左に傾けると選択している項目を変更できます。

SET (●)
選択の決定時に押します。
※操作方法の詳細は「設定について」を参照ください。

IR 受光部
IR リンクの際の受光部です。

背面

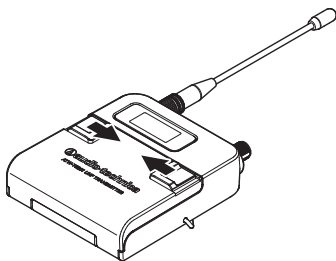
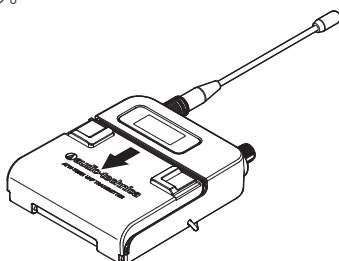
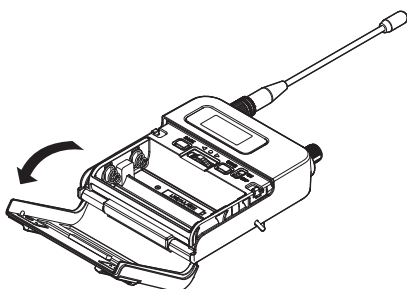
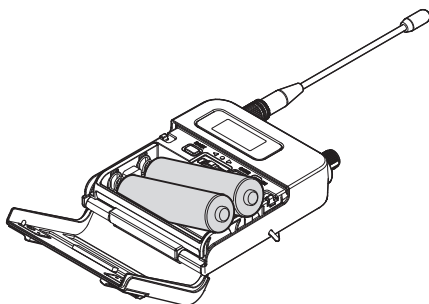
技術基準適合証明シール
本シールが付いていない無線機を使用すると、法規上違反になる場合があります。絶対に剥がさないでください。

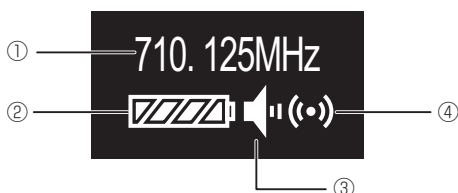
パワーインジケーター
電源が ON の時に緑色に点灯します。電池の残量が少ない場合は、赤色に点灯します。

天面

リコールボタン
画面が消灯しているときに押すと、再点灯します。

電池の入れかた

1. バッテリーカバーのノブを内側にスライドさせます。

2. **1**のスライドさせた状態で、さらに矢印の方向にスライドさせます。

3. **2**の状態から、図のようにバッテリーカバーを開けます。

4. 本体に表記されているプラス（+）とマイナス（−）の向きを確認して、正しく電池を入れます。

ディスプレイ表示について

電源をONにすると、メイン画面が表示されます。

① 周波数/NAME

UP/DOWNボタンで表示が切り替わります。

※初期設定時は、周波数のみが表示されます。

② 電池残量表示

本製品の電池残量を表示します。

：75%以上電池残量があります。

：50 ～ 75%電池残量があります。

：25 ～ 50%電池残量があります。

：電池残量が25%以下です。

：電池を取り替えてください。

※電池の消耗具合を簡単に見分けるものです。目安として使用してください。

※電池残量がなくなったら、電池を取り替えてください。充電式電池を使用している場合は、充電を行ってください。

③ マイクゲイン表示

：0 ～ 6 dB

：8 ～ 12 dB

：14 ～ 20 dB

④ 送信出力表示

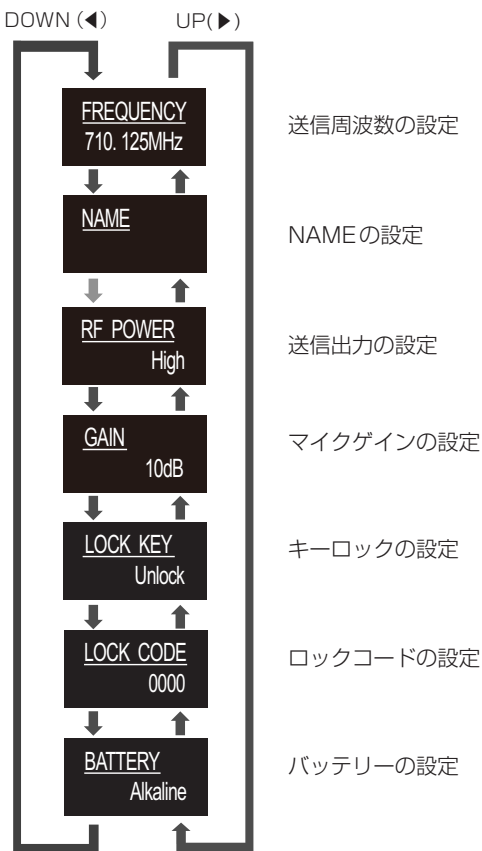
：RF Power High（10mW）

：RF Power Low（2mW）

設定について

■ メニュー画面

レバープッシュスイッチのSET (●) ボタンを押すと、メニュー画面モードになります。UP(▶)/DOWN (◀) ボタンを動かすと、下記の順番で設定したい内容の画面に進みます。

※設定中の画面で、10秒間何もボタン操作をしないと、メイン画面に戻ります。

送信周波数の設定

NAMEの設定

送信出力の設定

マイクゲインの設定

キーロックの設定

ロックコードの設定

バッテリーの設定

■ 送信周波数の設定

メニュー画面からUP/DOWNボタンで「FREQUENCY」を選択し、SETボタンを押します。

上位３桁の下に線が表示されます。

UP/DOWNボタンで周波数を選択します。

SETボタンを押します。

下位３桁の下に線が表示されます。

UP/DOWNボタンで周波数を選択します。

SETボタンを押します。

「STORED」と表示され、送信周波数設定が完了します。

■NAMEの設定

入力文字数は10文字です。

入力できる文字の種類は以下のとおりです。

・アルファベットの大文字、小文字52文字
・数字
・スペース
・ピリオド
・プラス
・マイナス

メニュー画面からUP/DOWNボタンで「NAME」を選択し、SETボタンを押します。

UP/DOWNボタンで文字を選択します。

文字が表示されたら、SETボタンを押します。

選択した文字が決定され、カーソルが右に移動します。

同じ手順で文字を入力します。

文字は10文字すべてを入力する必要があります。

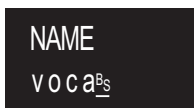
10文字入力しない場合は、スペースのままSETボタンを押して10文字目までカーソルを移動させます。

10文字目でSETボタンを押します。

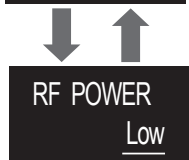
「STORED」と表示され、NAMEの設定が完了します。

選択した文字を修正する場合

文字を決定した後に修正する場合は、UP/DOWNボタンで「BS」の文字を選択します。

SETボタンを押すと、１つ前の文字が削除され、カーソルが左に１つ戻ります。

■ 送信出力の設定

メニュー画面からUP/DOWNボタンで「RF POWER」を選択し、SETボタンを押します。

UP/DOWNボタンで送信出力を選択します。「High」と「Low」が選択できます。

SETボタンを押します。

「STORED」と表示され、送信出力の設定が完了します。

■ ゲインの設定

※初期設定時は10dBです。

メニュー画面からUP/DOWNボタンで「GAIN」を選択し、SETボタンを押します。

UPボタンで、2dBずつ大きくなります。

DOWNボタンで、2dBずつ小さくなります。

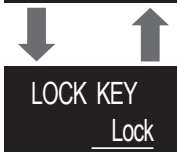
ゲインを選択後、SETボタンを押します。

「STORED」と表示され、ゲイン設定が完了します。

■ キーロックの設定

キーロックの設定状況を表示します。

Unlock	キーロック解除状態
Lock	キーロック状態

メニュー画面からUP/DOWNボタンで「LOCK KEY」を選択し、SETボタンを押します。

キーロック設定を選択後、SETボタンを押します。

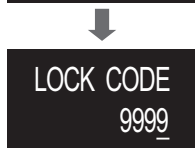
「STORED」と表示され、キーロック設定が完了します。

■ ロックコードの設定

ロックコードはキーロックのための４桁の数字です。
（「0000」から「9999」まで設定可能です。）

キーロックが有効になると、メイン画面からメニュー画面に入る際、ロックコードが必要となります。

メニュー画面からUP/DOWNボタンで「LOCK CODE」を選択し、SETボタンを押します。

UP/DOWNボタンを押すと、0から9の数字を選択できます。
設定したい数字を選択し、SETボタンを押します。

同じ操作を繰り返して４桁の数字を入力します。

４桁目を入力し、SETボタンを押します。
「STORED」と表示され、ロックコードの設定が完了します。

■ 電池の設定

使用する電池の種類を設定します。

メニュー画面からUP/DOWNボタンで「BATTERY」を選択し、SETボタンを押します。

Alkaline	アルカリ乾電池を使用する場合に選択します。
Ni-MH	ニッケル水素電池を使用する場合に選択します。

使用する電池と同じ設定を行わないと、電池残量表示が正しく表示されません。必ず使用する電池に合わせた設定を行ってください。

電池の種類を選択後、SETボタンを押します。

「STORED」と表示され、電池設定が完了します。

キーロックの使用方法

キーロックは不用意に本製品の設定が変更されないように、メニュー画面に入れないようにする機能です。

キーロックを「Lock」に設定していると、メニュー画面を表示するのに、ロックコードが必要となります。

■ キーロック設定のしかた

1. ロックコードを設定します。
   ※設定した４桁の数字は忘れないようにしてください。

2. キーロックの設定を「Lock」に設定します。
   ※BACKボタンを押してメイン画面に戻ると、キーロックが有効になります。

■ キーロック解除のしかた

1. キーロックが有効な場合、メイン画面からSETボタンを押すと、ロックコード入力画面が表示されます。
   ※BACKボタンを押すか、10秒間操作しないと、メイン画面に戻ります。

2. 設定した４桁の数字を入力します。
   UP/DOWNボタンを押して、数字を選択し、SETボタンを押します。
   同じ操作を繰り返して４桁の数字を入力します。

3. ４桁の数字すべてを入力したら、SETボタンを押します。正しいロックコードを入力すると、メニュー画面が表示されます。

4. メニュー画面からキーロックの設定を「Unlock」に設定すると、キーロックは解除できます。

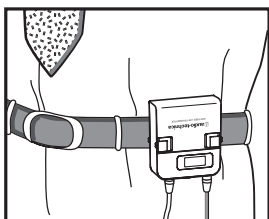
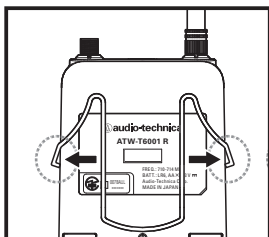
IRリンクについて

本製品には、IRリンク機能が搭載されています。受信機で設定した内容をIRリンクで、本製品に送信して同期できます。

IRリンクのしかたは、別売の受信機の取扱説明書を参照ください。

取り付けかた

本製品にはクリップが付いているため、ベルトなどに取り付けて使用してください。

クリップを逆方向に取り付けると、マイク入力コネクターの向きを逆にすることができます。

クリップを本製品から外す際は、クリップの両側を強く外側へ引いてください。

故障かな?と思ったら

「LOW BATT」の表示が出て、操作ができない。

→ 電池が消耗していませんか?

音声が出ない。音声が小さい。

→ 本製品・受信機の周波数設定があっていますか?
→ 本製品の入力レベル設定は適切ですか?
→ マイクが正しく接続されていますか?
→ 受信機に接続した機器のボリュームを絞りきっていませんか?

音が歪む。

→ 本製品の入力レベル設定が大きすぎませんか?

ノイズが出る。

→ 本製品・受信機の近くに蛍光灯や電気器具などのノイズ発生源はありませんか?
→ 受信機をノイズの発生源の近くに設置していませんか? また、ノイズが多い機器と同じコンセントから電源を取っている場合もノイズが出ることがあります。
→ TV52chが地デジで使われている地域ではありませんか?詳細はP.5「特定ラジオマイク専用帯(710 ～ 714MHz)」を参照ください。

テクニカルデータ

発振方式：水晶制御PLLシンセサイザー
送信周波数：710.125MHz ～713.875MHz
（31チャンネル）
周波数ステップ：125kHz
電波型式：F3E
空中線電力：10mW/2mW
基準周波数偏移：±5kHz
最大周波数偏移：±16.25kHz
周波数特性：70～15,000Hz
電源：DC3V（単3形アルカリ乾電池2本使用時）
動作温度範囲：5℃～45℃
電池寿命：約7時間（単3形アルカリ乾電池2本使用時）
消費電流：230mA以下（DC3V時）
外形寸法：62×70×17mm（突起物を除く）
質量：約90g（電池除く）
（改良などのため予告なく変更することがあります。）

製品保証および修理などにつきましてはお買い上げのお店、または当社ホームページ記載の各営業所までお問い合わせください。

株式会社オーディオテクニカ
http://www.audio-technica.co.jp/proaudio
232305381 2015.10